煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集＊渡部
TEL 046-223-0110

覚醒剤等薬物乱用の防止

○　薬物乱用とは

覚醒剤、大麻、麻薬、危険ドラッグ等の医療目的ではない薬物を不正に使用することや、医薬品を医療目的以外に使用することを言います。たとえ１回の使用でも、乱用のきっかけになり、同時に犯罪になります。

薬物の乱用は、精神と身体の両面を深く致命的に破壊します。覚醒剤を始めとする薬物の乱用は脳の正常な発達を止めてしまい、精神のバランスを悪くさせ、身体も心もボロボロになり、人間らしい生活が送れなくなります。

また、乱用による幻覚や妄想から、他人を傷つける事件や他人を巻き込む交通事故を起こしたり、薬物購入資金を得るために窃盗等の様々な犯罪に手を染めることがあります。

乱用者本人だけでなく、家族や周囲の人々、さらには社会全体に対しても、取り返しのつかない被害を及ぼします。

○　薬物乱用を誘われたら

薬物乱用は「皆やってる。」「痩せられる。」「合法・脱法だから大丈夫。」「すぐにやめられる。」などと甘い言葉で誘われます。もし、先輩、友達等の身近な人から薬物を勧められても、ハッキリ・キッパリ断り、その場から離れましょう。

薬物乱用は大切な家族、友人を傷つけ、あなたの人生を台無しにします。

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」です。

○　手遅れになる前に相談を

「友人が薬物を使っている。」「薬物の誘いを断る自信がない。」「薬物を使ってしまったけど、家族には言えない。」「薬物乱用をやめたい。」このような場合は、一人で悩まないでください。

大切なものを失う前に、警察や専門機関に相談しましょう。

○　警察では

薬物問題を治安の根幹を揺るがす重大な社会問題と捉え、覚醒剤等の規制薬物や危険ドラッグの供給の遮断と需要の根絶を目指して、厳しい取締りや関係機関と連携した薬物乱用のない社会の実現に向けた広報啓発活動等の諸対策を強力に推進していきます。

性犯罪被害の防止

～性犯罪は、被害者を心身ともに深く傷つけます～

性犯罪は、被害者を心身ともに深く傷つけ、たとえ身体の傷が癒えても被害者だけでなく、周りの家族等をも長きにわたって苦しめ続ける許しがたい犯罪です。

混雑した電車内、帰宅途中、就寝中等さまざまな場面で、被害に遭う可能性が潜んでいます。

これから暖かくなると、衣服も薄着になり、人の気持ちも開放的になります。

そして、毎年この季節になると、性犯罪の被害が増える傾向にあります。

特に女性の皆さんは、自分の身を守ることを意識して、次のようなことを心がけ、性犯罪の被害に遭わないようにしましょう。

帰宅するとき

○ 深夜の帰宅は、家族に迎えに来てもらう、タクシーを利用するなどして、一人歩きは避けましょう。

○ 携帯電話やヘッドホンを使用しながらの歩行は、周囲への警戒心が薄れて、被害に遭う危険性がありますので控えましょう。

○ 遠回りでも幹線道路等明るく広い道を通り、時折り周囲の様子に気を配りましょう。

○ 防犯ブザーや笛（ホイッスル）等、音の出るものを携帯しましょう。スマートフォンの防犯ブザーアプリ等もあります。

自宅に入るとき

○ 周囲に人がいないことを確認してから玄関を開けましょう。

※「ただいま」など大きな声を出しながら鍵を開けるのも一つの方法です。

※○ 開錠後は素早く家の中に入り、必ず鍵を掛けましょう。ドアには複数の鍵を取り付けると、より安心です。

自宅に居るとき

○ 上層階でも窓から侵入された事例があるので、就寝前にもう一度、玄関だけでなく、窓の戸締りも確認しましょう。

○ 暑い夜はエアコン等を利用し、ベランダや小窓、高窓も必ず鍵を掛けましょう。

○ 来訪者には、ドアチェーンを掛けたまま対応し、相手を確認した後にドアを開けましょう。

性犯罪でお困りの女性は、最寄りの警察署または性犯罪110番に御相談ください。性犯罪110番電話045（681）0110又は短縮ダイヤル#8103

事　件　記　録　板

4月中旬から5月中旬までの事件は、
刑法犯等の犯罪はありませんでした。

平成３０年５月２４日（木）午前０時ころ、土山峠のバス停付近でツキノワグマの目撃情報がありました。どうか刺激をせずに背を向けず後ろ向きで避難し、音の出るものを携帯してください。

また道路でスケボーや石を投げるなどの遊びをしている子供がいるなどの苦情があります。狭い村ですから、快適な生活をするためにも、どうかやってはいけない事はお互いに注意し合えるいいですね。注意されたら謙虚に受け止めてください。

駐在所の独り言　～今後も日本の技術力に期待します～

最近、中古の軽自動車を購入しました。軽自動車と言っても乗用車ではなく貨物の軽トラです。人生初めて購入した軽トラですが、日本独自のサイズと排気量の枠の中で開発されてきた軽トラは、どのメーカーも似たようなスタイルですが、このサイズとスタイルが、最近米国を始め、中国、ロシア、中東でも人気が高いようです。軽トラは、畑までのちょい乗りのイメージですが、個々にメーカー毎に特徴と拘りがあったりします。自分の命を預ける乗り物ですから、熟知して購入したいものです。私が購入したスバルの軽トラは、四輪駆動もありますが、他社にはない４気筒リアエンジンで後輪駆動、独立懸架サスペンションが特徴です。その他に最大の特徴は、ラダーフレームを採用していることです。ラダーフレームは、負荷に対する強度が優れています。パリダカなどの砂漠で高重い荷物を載せて飛んだり撥ねたりと高負荷が掛かる事が予想されるランドクルーザーなどに採用されています。なにせあれほど高価で人気が高いハイエースですらモノコックですから、安価な商用車で採用しているのは、全く考えられないことです。またこんなエンジンない後輪駆動のこの利点は、空荷の際でもしっかりと後輪にトラクションが掛かり路面を掴み、特に発進時はスムーズな発進が可能です。後輪急制動のフルブレーキングの際も重量配分されているので四輪がしっかりと路面を掴んでくれます。普通乗用車でも低重心のボクサーエンジンを採用は、理想的で日本では他社にはないスバル独自のものです。また赤帽で採用されるスバルの軽貨物車は、オイル交換など日常のメンテナンスだけで２０万キロ故障なく使用出来る様に開発されているようです。丈夫なエンジンですから未だに中古で販売されていますが、４０万キロを超える車両も珍しくないようです。こんなスバルも残念ながら軽自動車から撤退し、現在、スバルのディラーで売られている軽自動車はダイハツが開発、製造されたものです。なぜスバルが軽自動車から撤退したかですが、２００５年に米国の GM が経営不振に陥り、GM の所有するスバルの株式をトヨタ自動車に売却し、トヨタとスバルが資本提携関係が結ばれたのです。それ以前は日産とも資本提携関係があったようですが・・。提携後、トヨタは、資本提携の条件として、利益幅が小さい軽自動車の開発の中止と利益幅が大きいスポーツ車、SUV 開発を要求するに至った経緯があるようです。当然利益追求は当然ですが、売れると見込んだ車も複数の自動車メーカーが躍起に開発して競業するより独自の開発を推し進める方が収益に繋がるのではと思いますが、これは素人考えなのかもしれません。結果、スバルは、１９５８年から２０１２年まで５４年に及ぶ軽自動車生産の幕を下ろしました。このようにしてスバルの軽自動車は撤退し、トヨタの傘下にあるダイハツから供給される事になったようです。自動車メーカーは、スバルに限らず全て、利益追求しつつ社会貢献も目指し優秀な物づくりをしています。今後の車は、燃費の良いハイブリッドから、電気自動車になり、更に自動運転も目前です。運輸物流は、日本経済を循環させる血液のような重要な役割があります。今後も世界からも愛され、日本の高い技術力を示す車づくりを期待したいと思います。